



皆野中だより

9月号



令和8年9月1日発行 第6号

皆野町立皆野中学校 TEL 62-0432 FAX 62-0076

【校訓】剛き意志 深き愛 自由の胸 純なるこころ

【学校教育目標】人間力で自立する生徒の育成

【目指す学校像】ウェルビーイングを実現する学校

生徒数 1年69名 2年61名 3年75名 合計205名

流儀と利他

校長 板倉邦弘

45日間にわたる夏季休業日が終わり、2学期が始まりました。生徒の皆さんそれぞれが充実した夏休みを過ごせたことと思います。8月25日（火）には有志生徒による校舎内のボランティア清掃がありました。参加してくれた生徒の皆さん、大変ありがとうございました。整った環境の中で、2学期を迎えられました。

さて、夏季休業日が始まってすぐ、学総体の県大会があり、本校柔道部が男子団体戦で、剣道部が女子団体戦で関東大会への出場権を獲得しました。私もそれぞれの県大会を一日観戦させていただき、その瞬間に立ち会うことができました。緊張する大舞台で実力を発揮し、代表決定戦に勝利した時の選手と保護者の方々の喜ぶ姿、涙する姿は感動的でした。今号では、両県大会を観戦しながら気づいた、様々なスポーツに根付く「流儀」とでも言うのでしょうか、そういうものについて述べたいと思います。

私は大相撲の土俵入りが好きです。拍子木の音に合わせて、きらびやかな化粧まわしを身に付けた力士たちが入場してきます。「(カチン)、大栄翔(カチン)、埼玉県朝霞市出身追手風部屋(カチン)、安青錦(カチン)、ウクライナ出身安治川部屋、(カチン)・・・」という具合に力士が紹介されます。カチンという音と間合い、テンポ、アナウンスの声。力士の所作も含めて、そのすべてが美しく心地よい。柔道や剣道の審判をされる方の所作にも同じ心地よさを感じました。入場の態度、判定の所作や声量……。相撲・柔道・剣道といった武道だけでなく、さまざまなスポーツの審判の動きを見ていると、そこには「決まり事」というか「流儀」があることが分かります。

そんなことに注目しながら様々なスポーツを観戦していたら、審判以外の関係者の動きも実に美しいと感じるようになりました。大相撲で例えると「行司」「呼び出し」「付き人」、箒で土俵上をならす人など、プロ野球で例えると決して試合に出ることのない「バッティング投手」「ブルペン捕手」、グラウンド整備をする人、ボールボーイなど、実に様々な役割の人がそれぞれの流儀に従って働いている。関わっている全ての人々が、必要な役割を持ち、その職責を果たすことで試合や大会が成立し、選手が力を発揮できる。それを観ている私たちも感動を与えてもらえる。共通して言えることは、職責を果たすことが結果的に誰かのためになっているということです。誰かのためになること、これを「利他」と言います。

スポーツの世界だけではなく、世の中では会社などの組織はもちろん、家庭や学校でも様々な役割があります。生徒の皆さんも学級や委員会で様々な役割を持っています。その役割を果たすことは誰かのためになり、巡り巡って自分の幸せにつながります。この2学期、多くの行事があります。「利他」の機会がたくさんあります。